

1. アンケート調査実施概要

○実施概要

北陸の景気動向や業況その他について、会員の意見、要望を的確、迅速に把握し、その結果を報告するとともに、各方面への要望活動に活かすため、北陸地域の景況などに関するアンケート調査を実施した。[今回で29回目]

○調査時期

平成25年2月22日～3月7日

○調査対象

北陸経済連合会会員企業

○回収率

回答率53.8%（送付企業344社、回収数185社）

○調査企業概要

本社の所在地	回収数	割合
富山県	67	36.2%
石川県	57	30.8%
福井県	22	11.9%
北陸三県以外	39	21.1%
計	185	100.0%

従業員数	回収数	割合
100人未満	47	25.4%
100～300人未満	47	25.4%
300～500人未満	23	12.4%
500～1,000人未満	17	9.2%
1,000人以上	51	27.6%
無回答	0	0.0%
計	185	100.0%

資本金	回収数	割合
3千万円未満	18	9.7%
3千万円～5千万円未満	17	9.2%
5千万円～1億円未満	27	14.6%
1億円～10億円未満	56	30.3%
10億円以上	67	36.2%
無回答	0	0.0%
計	185	100.0%

注) 大企業：資本金10億円以上
 中堅企業：資本金1億円以上10億円未満
 中小企業：資本金1億円未満

業種		回収数	割合
製 造 業	食料品製造業	1	0.5%
	繊維工業	1	0.5%
	木材・紙・パルプ製造業	1	0.5%
	出版・印刷・同関連事業	6	3.2%
	化学工業	5	2.7%
	鉄鋼業・非鉄金属製造業	6	3.2%
	金属製品製造業	5	2.7%
	機械工業	8	4.3%
	その他製造業	21	11.4%
非 製 造 業	卸売業	17	9.2%
	小売業	2	1.1%
	建設業	33	17.8%
	農・林・漁業	0	0.0%
	鉱業	0	0.0%
	金融業	18	9.7%
	不動産・公益事業	2	1.1%
	サービス業	29	15.7%
	その他の産業	30	16.2%
無回答	0	0.0%	
計	185	100.0%	

業種	回収数	割合
製造業	54	29.2%
非製造業	131	70.8%
無回答	0	0.0%
計	185	100.0%

規模別	回収数	割合
大企業	67	36.2%
中堅企業	56	30.3%
中小企業	62	33.5%
無回答	0	0.0%
計	185	100.0%

2. アンケート調査結果概要

[総 括]

景気動向

- ・現在の北陸地域の景気の基調は、「底這い」とみる企業が半数近く（47.0%）あり、厳しい状況にあるものの、「すでに回復」「回復基調」とみる企業（49.2%）が、前回調査（15.2%）を大きく上回り、持ち直しの動きがうかがえる。
- ・24年下期の判断を景気判断BSI（「良い」と答えた割合から「悪い」を引いた値）で見ると、5.4（前回▲25.7）とプラスに転じ、景気は良くなっているとみる企業が増加した。また、来期（25年上期）の見通しについては57.8であり、現状判断（5.4）より大幅に改善している。
- ・25年度全体の景気動向についても、「良くなる」「やや良くなる」と答えた企業（72.5%）が、「やや悪くなる」「悪くなる」（5.4%）を大きく上回った。
- ・現在の景気が「底這い」「下降」とした企業についても、今後回復に転じると予想される時期は、67.9%（上期22.2%、下期45.7%）が25年度中としており、景気回復への期待感がうかがえる。

業績

- ・現在の業績水準は、「大変良い」「良い」とみる企業が13.5%であるのに対し、「悪い」「大変悪い」とみる企業が24.8%と、依然として厳しい状況であることがうかがえる。
- ・24年下期の判断を業績判断BSI（「改善」と答えた割合から「悪化」を引いた値）で見ると、現状判断は、前回調査（24年上期）と同様▲2.2となり横ばいであった。また、来期（25年上期）の見通しについては27.0であり、改善を見込む企業が増加している。
- ・現在の業績が「悪い」「大変悪い」とした企業について、今後良くなる時期は25年下期（32.6%）が最も多く、26年上期（26.1%）と続いている。

設備投資

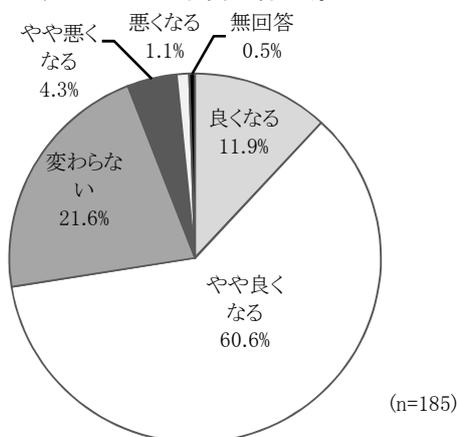
- ・現在の設備水準については、「適正である」と答えた企業が66.5%で、前回調査（76.1%）同様、大半を占めた。また、「不足」「非常に不足」とする企業（17.3%）が「非常に過剰」「過剰」とする企業（11.9%）を上回った。
- ・設備投資（前年対比）について、24年度は「増加した」と答えた企業（24.9%）が「減少した」と答えた企業（14.6%）を上回った。25年度見込みについても、「増加」と答えた企業（27.6%）が「減少」と答えた企業（15.7%）を上回り、引き続き設備投資は増加傾向にある。

I. 景気動向

厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがうかがえる

- ・ 25年度の全体の景気動向については、「良くなる」「やや良くなる」と答えた企業が72.5%で、「やや悪くなる」「悪くなる」の5.4%を大きく上回った。(図表1)
- ・ 24年下期の判断を景気判断BSI(図表2、※)でみると、前回調査の現状(24年上期)判断が▲25.7であったのに対し、今回は5.4とプラスに転じ、景気は良くなっているとみる企業が増加した。業種別にみると、製造業が▲9.2(前回▲29.2)であるのに対し、非製造業が11.4(前回▲23.6)と改善の度合いに差がみられた。
- ・ 来期(25年上期)の見通しについては57.8であり、現状判断(5.4)より大幅に改善している。(図表2)
- ・ 以上を総合的に勘案した現在の北陸地域の景気の基調は、「底這い」と見る企業が47.0%と依然として半数近く、厳しい状況にあるものの、「すでに回復」「回復基調」とみる企業が49.2%で、前回調査(15.2%)を大きく上回り、持ち直しの動きがうかがえる。(図表3)
- ・ 現在の景気が「すでに回復」「回復基調」とした企業について、回復に転じた時期は24年下期とする企業が82.4%を占めた。(図表4) また、回復した理由は、「経済政策」が45.1%(前回2.9%)と最も多く、「公共投資の効果」が35.2%と続いている。(図表5)
- ・ 一方、現在の景気が「底這い」「下降」とした企業について、今後回復に転じると予想される時期は、25年下期とみる企業が45.7%と最も多く、25年上期が22.2%と続いている(図表6) また、低迷の理由は、「個人消費の低迷」が70.0%と最も多く、「設備投資の低迷」が54.4%と続いている。(図表7)
- ・ 25年度の経済成長率(実質)の見通しは、全国および北陸地域ともに概ねプラスの成長を見込んでいるが、全国(+0.5%~+1.5%)に比べ北陸(0%~+1.0%)は若干低い傾向を示している。(図表8)

図表1. 平成25年度全体の景気



図表2. 平成24年下期の景気判断と見通し

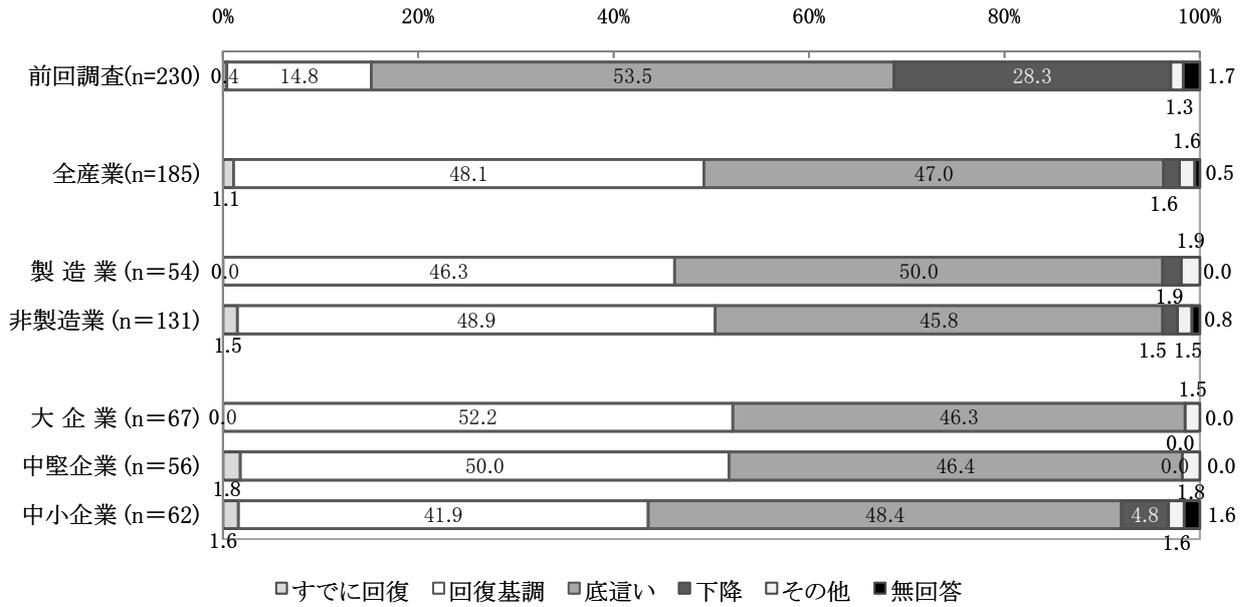
※景気判断BSI

(「良い」「やや良い」) - (「悪い」「やや悪い」) 社数構成比

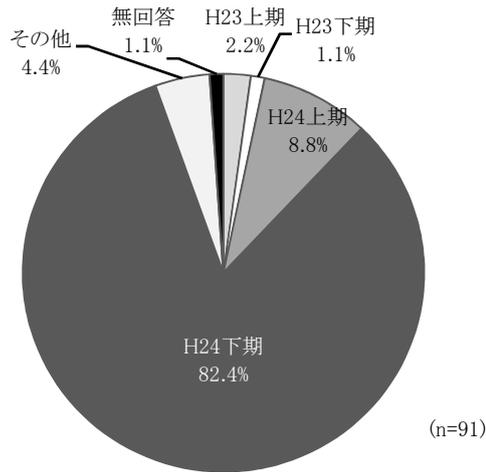
		前回調査		今回調査		
		24年4~9月(前期)		24年10~3月(今期)		25年4~9月(見通し)
		景気判断BSI	変化幅	景気判断BSI	変化幅	景気判断BSI
全産業		▲ 25.7	31.1	5.4	57.8	52.4
業種	製造業	▲ 29.2	20.0	▲ 9.2	55.5	64.7
	非製造業	▲ 23.6	35.0	11.4	58.8	47.4
規模	大企業	▲ 8.9	23.8	14.9	68.7	53.8
	中堅企業	▲ 36.9	42.2	5.3	55.4	50.1
	中小企業	▲ 32.0	27.2	▲ 4.8	48.3	53.1

注) 24年10~3月(今期)の変化幅は24年4~9月(前期)との対比、25年4~9月(見通し)の変化幅は24年10~3月(今期)との対比。

図表3. 現在の景気基調

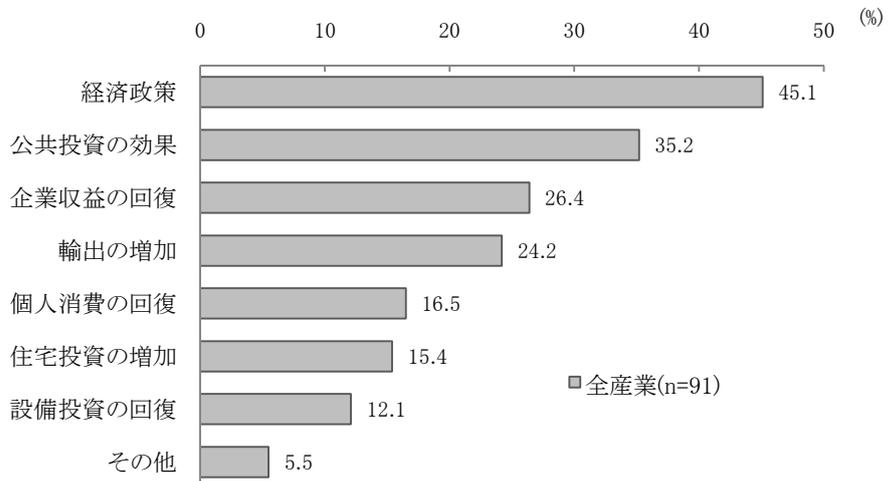


図表4. 北陸地域の景気が回復に転じた時期

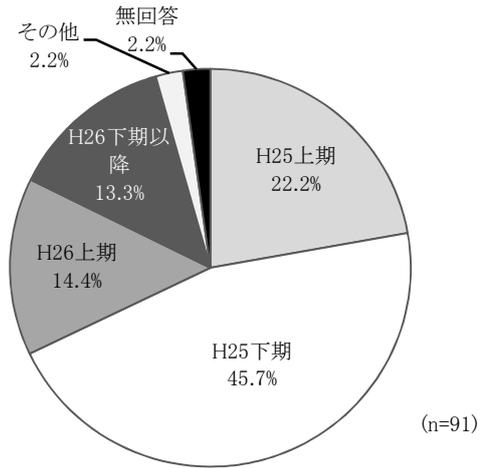


図表5. 現在の景気が良い理由（複数回答）

景気が「すでに回復」「回復基調」と回答された企業

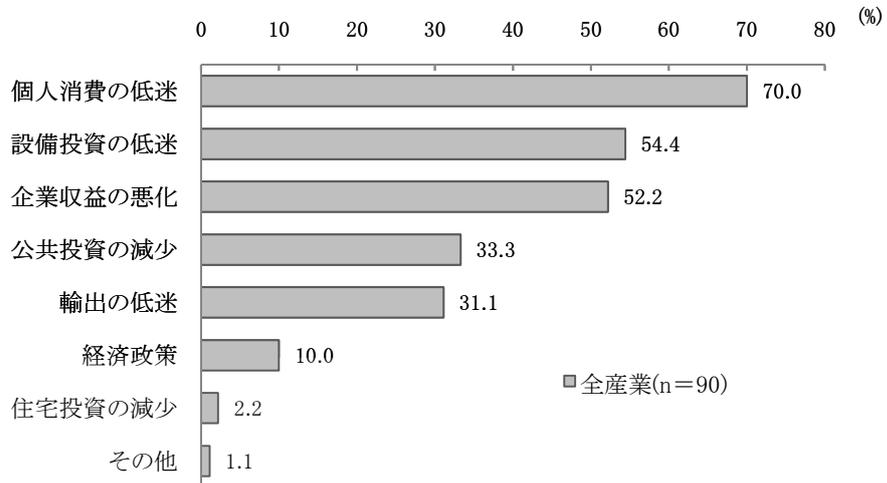


図表6. 北陸地域の景気が回復に転じる時期

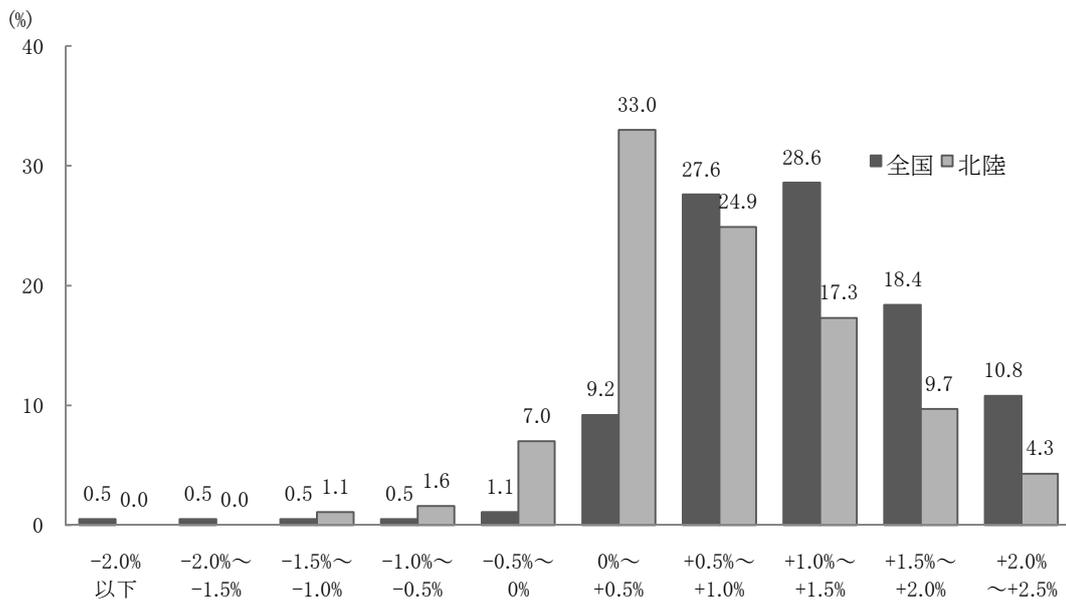


図表7. 現在の景気が悪い理由（複数回答）

景気が「底這い」「下降」と回答された企業



図表8. 平成25年度の経済成長率（見通し）



Ⅱ. 業績

厳しい状況の中にも、改善の動き

- ・ 24年下期の判断を業績判断BSI（図表9、※）でみると、現状判断は、前回調査（24年上期）と同様▲2.2となり横ばいであった。
- ・ 業種別でみると、製造業が▲24.1（前回▲8.5）と悪化している。規模別でみると、大企業（7.5）が依然プラスであるのに対し、中堅企業（▲1.8）・中小企業（▲12.9）はマイナスになっている。（図表9）
- ・ 来期（25年上期）の見通しについては27.0と、改善を見込む企業が増加している。業種別でみると、製造業が27.8（今期▲24.1）と改善を見込む企業が大幅に増加している。規模別でみると、中堅企業（12.5）・中小企業（19.4）に対し、大企業は46.3と多くの企業が改善を見込んでいる。（図表9）
- ・ 現在の業績水準についてみると、「悪い」「大変悪い」とみる企業（24.8%）が「大変良い」「良い」とみる企業（13.5%）を上回っており、依然として厳しい状況であることがうかがえる。（図表10）
- ・ 現在の業績が「大変良い」「良い」とした企業について、良くなった時期は24年下期が56.0%と過半数を占めた。（図表11）また、改善した理由は「国内販売の好調」（60.0%）が最も多い。（図表12）
- ・ 一方、現在の業績が「悪い」「大変悪い」とした企業について、今後良くなる時期は25年下期が32.6%と最も多く、26年上期が26.1%と続いている。（図表13）また、悪化した理由は「国内販売の不振」（43.5%）が最も多く、「競争激化」（34.8%）と続いている。（図表14）
- ・ 経営上の課題では、「人材養成・確保」（62.7%）が最も多く、「国内販売力の強化」（60.0%）と続いている。業種別でみると、製造業では「新商品開発」（53.7%）が最も多い。（図表15）

図表9. 平成24年下期の業績判断と見通し

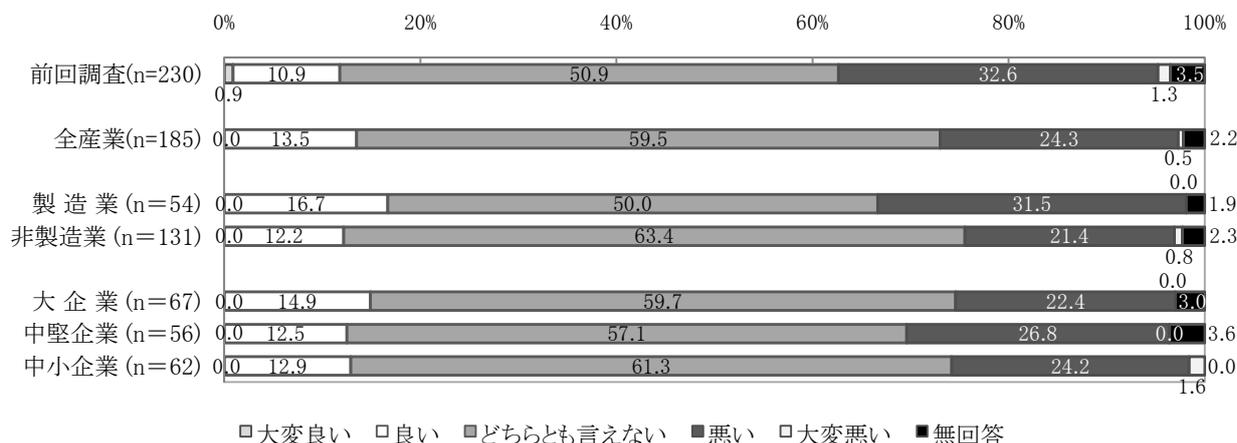
※業績判断BSI

（「改善」「やや改善」） - （「悪化」「やや悪化」）社数構成比

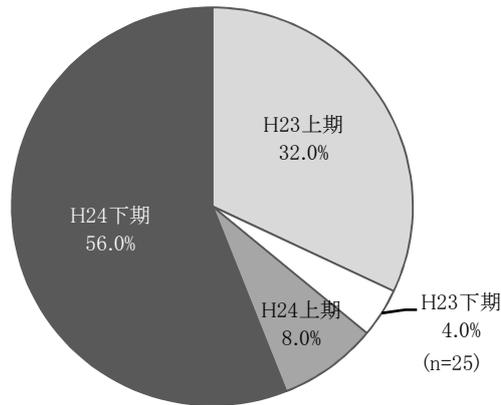
		前回調査		今回調査			
		24年4～9月(前期)		24年10～3月(今期)		25年4～9月(見通し)	
		業績判断BSI	業績判断BSI	変化幅	業績判断BSI	変化幅	
全産業		▲ 2.2	▲ 2.2	0.0	27.0	29.2	
業種	製造業	▲ 8.5	▲ 24.1	▲ 15.6	27.8	51.9	
	非製造業	1.3	6.9	5.6	26.6	19.7	
規模	大企業	10.2	7.5	▲ 2.7	46.3	38.8	
	中堅企業	▲ 10.5	▲ 1.8	8.7	12.5	14.3	
	中小企業	▲ 6.7	▲ 12.9	▲ 6.2	19.4	32.3	

注) 24年10～3月(今期)の変化幅は24年4～9月(前期)との対比、25年4～9月(見通し)の変化幅は24年10～3月(今期)との対比。

図表10. 現在の業績水準

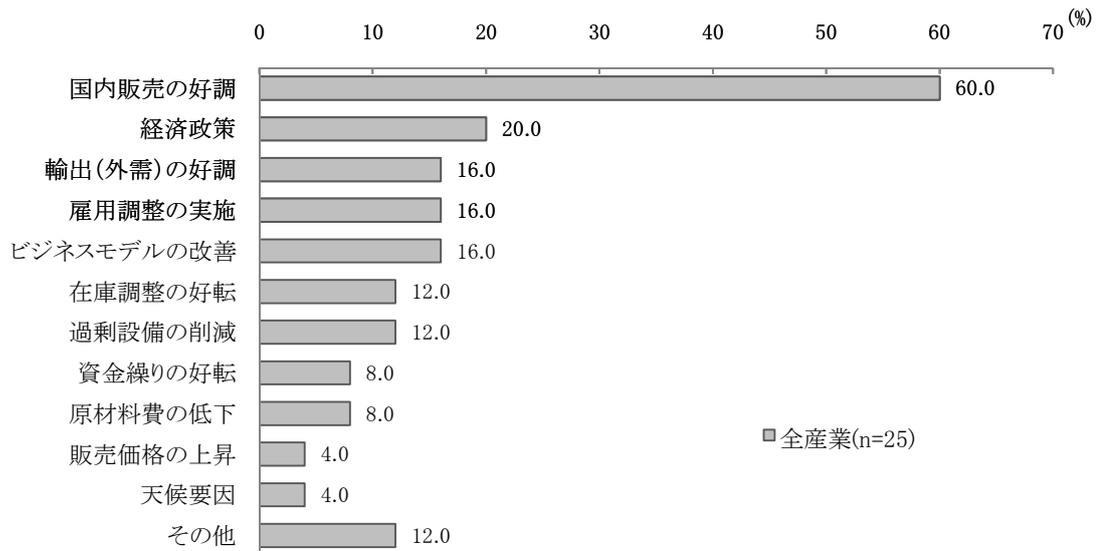


図表11. 業績が良かった時期

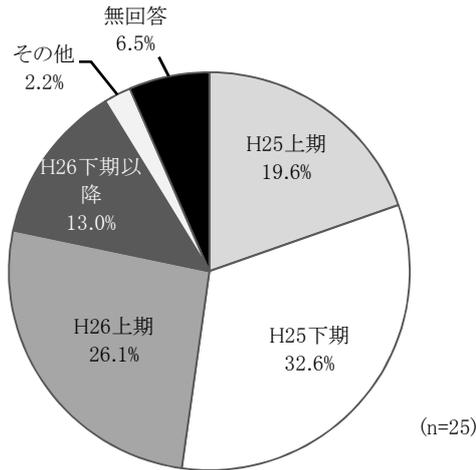


図表12. 現在の業績が良い理由 (3つまで回答)

業績が「大変良い」「良い」と回答された企業

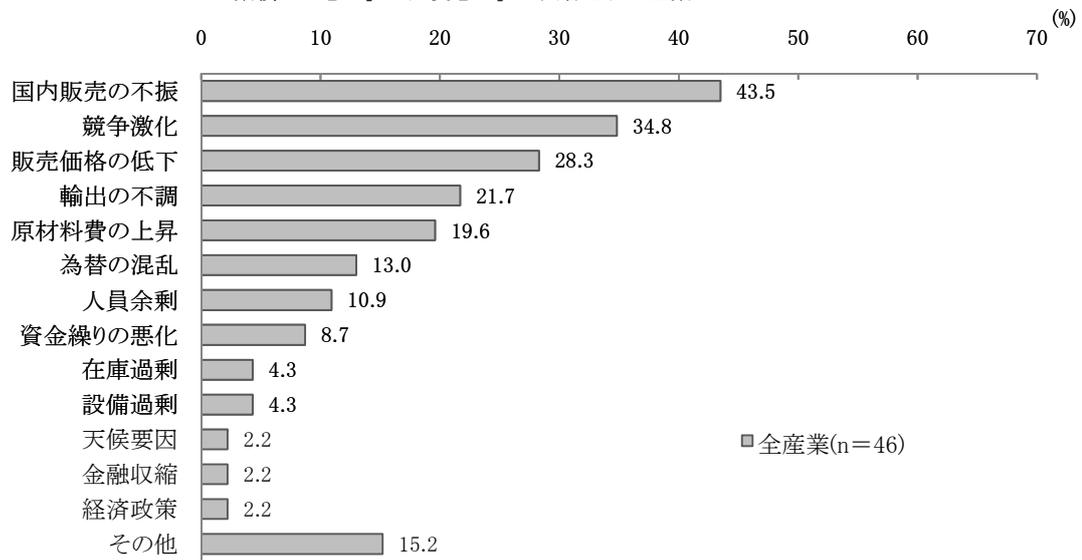


図表13. 業績が良くなる時期

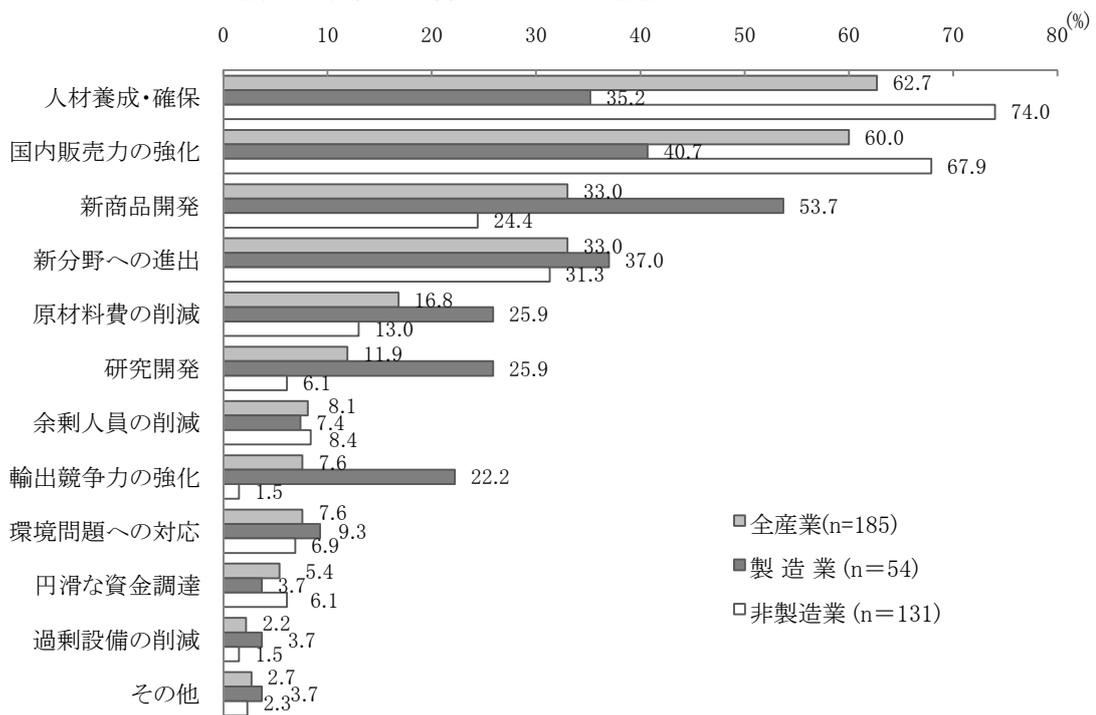


図表14. 現在の業績が悪い理由 (3つまで回答)

業績が「悪い」「大変悪い」と回答された企業



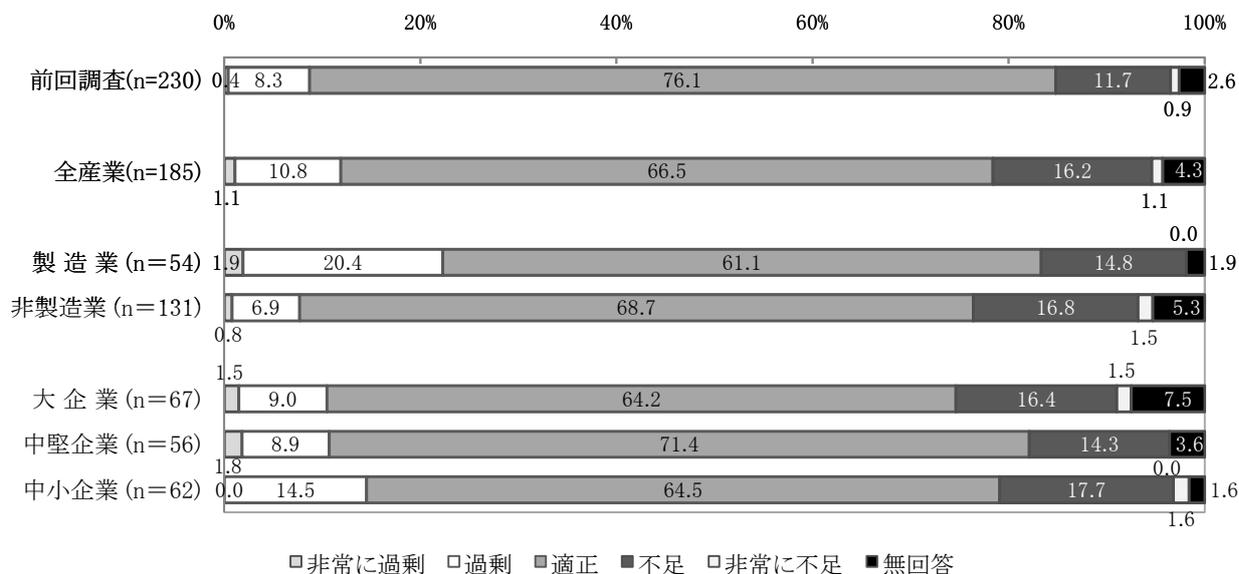
図表15. 経営上の課題 (3つまで回答)



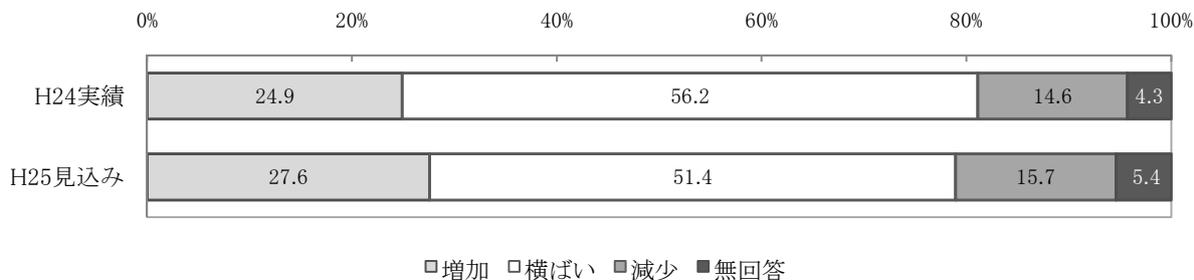
Ⅲ. 設備投資 引き続き増加傾向

- ・現在の設備水準については、「適正である」と答えた企業が66.5%で、前回調査（76.1%）同様、大半を占めた。また、「不足」「非常に不足」とする企業（17.3%）が「非常に過剰」「過剰」とする企業（11.9%）を上回った。（図表16）
- ・設備投資（前年対比）について、24年度は「増加した」と答えた企業（24.9%）が「減少した」と答えた企業（14.6%）を上回った。25年度見込みについても、「増加」と答えた企業（27.6%）が「減少」と答えた企業（15.7%）を上回り、引き続き設備投資は増加傾向にある。（図表17）
- ・25年度の設備投資が増加するとした理由としては、「設備の維持・更新が必要」（86.3%）が最も多く、「情報技術(IT)投資が必要」（33.3%）と続いている。（図表18）
- ・一方、25年度の設備投資が減少するとした理由は、「前年度が高水準（反動減）」（58.6%）が最も多く、「国内需要回復見通しが立たない」（24.1%）と続いている。（図表19）

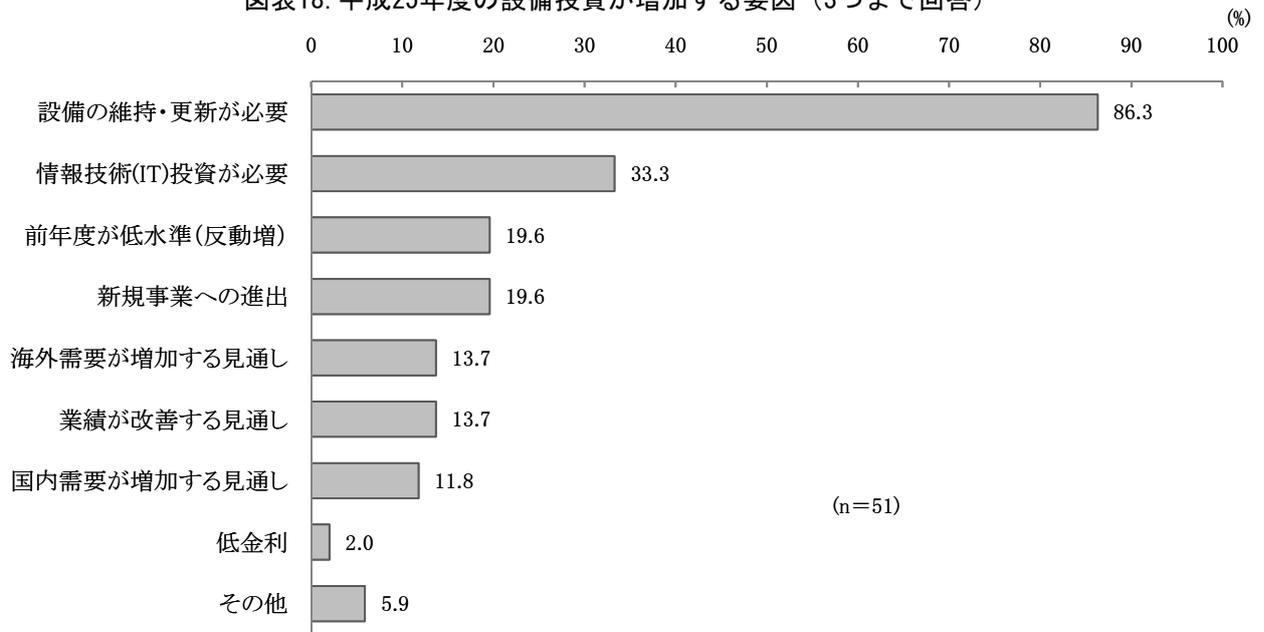
図表16. 現在の設備水準



図表17. 設備投資（前年度比）



図表18. 平成25年度の設備投資が増加する要因（3つまで回答）



図表19. 平成25年度の設備投資が減少する要因（3つまで回答）

